

Otonatachi

The Kids are Alright

2023.3

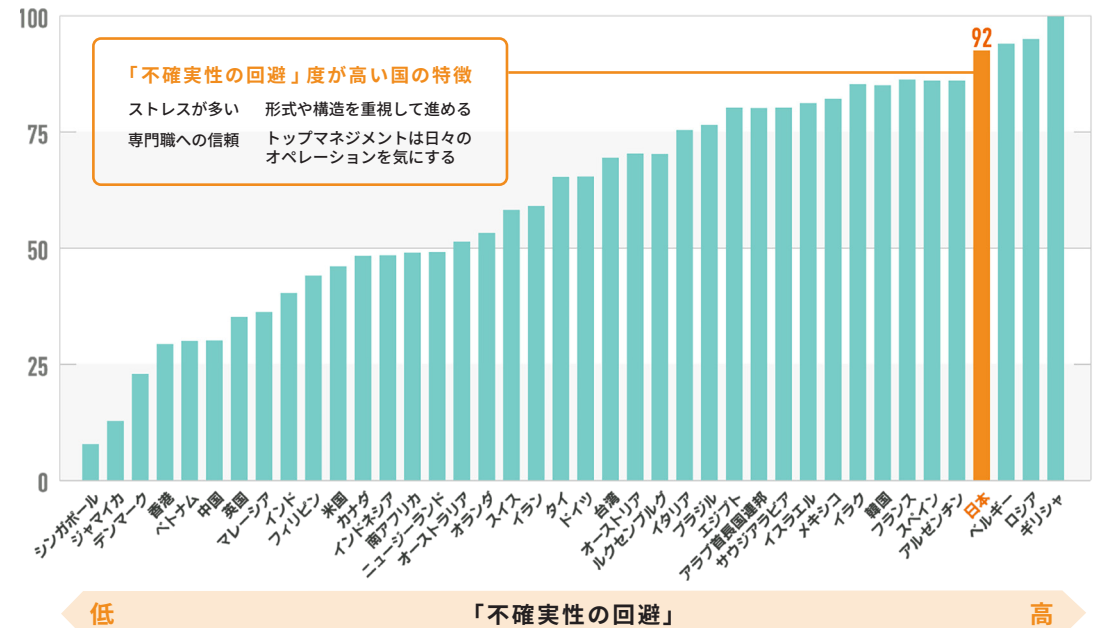
「やりたいことが わからない」は 撲滅できる

僕が高校2年生だった頃、当時一緒に活動していた大学4年生の先輩に思い切って電話して、先輩たちのやり方に意見したことがあります。自宅の部屋から緊張して電話したときのことを、20年経った今でも明瞭に覚えています。あの日、先輩にちゃんと意見を聴いてもらったこと、そして「いいじゃん、お前みたいなやつを待ってたんだよ」と言われたことが、その後の僕の人生を変えたのです。感じたこと、考えたことを誰に言ってもいいと思えるようになりました。自分が思った通りに行動してみてもいいのだとわかりました。そしてそれがすごく怖くて勇気を要することでも、心の声に従ったときの喜びや嬉しさは驚くほど大きくて、いつにない力を発揮できて、いつも誰かが応援してくれるのだと知りました。一方で、その後の日々でこれらのことを知らずにいる人がたくさんいることを知りました。

多くの人は「やりたいことがわからない」と言いますが、僕は何にも興味を持たずにいる人に出会ったことはありません。高校生も大学生も、あるいはすべての大人たちも、それを自覚できなかったり、行動できなかったりするだけなのです。

ではなぜそんなことが起きてしまうのでしょうか？

原因は「正しい答えと失敗回避を求め、自分自身よりコミュニティの雰囲気や年長者の意見を重視する傾向がある、歴史的な日本の文化」に対して、「情報化・多様化した現代社会の不確実さ・複雑さ」の相性が悪く、学生たちがうまく適応できていないことにあります(図)。



(図：国民文化6次元モデル「不確実性の回避」Hofstede Insights Japan, 2021)
ある国で生まれ育った人々の嗜好が、国ごとにどう異なるかを表し、各国の文化の違いを比較するツール

だから私たちは、すべての関心や意見を「いいじゃん」と肯定し、その動機が実現するよう支援することにしました。それが犯罪行為でない限り、どんな人のどんな価値観にも「いいじゃん」と言うために私たちは生きています。そうすることで発揮できる、人間ひとりひとりの独自の価値に私たちは魅了されているのです。

Otonatachi は、2018年から活動する非営利団体です。大人たちが次の大人たち(高校生・大学生)を支援する『1on1 college』という新しい仕組みをつくりました。それを求めるすべての学生へ届けるまで、日本を皮切りにゆくゆくは世界へ、私たちの挑戦は続きます。

長谷川 亮祐
mentor / founder
Otonatachi

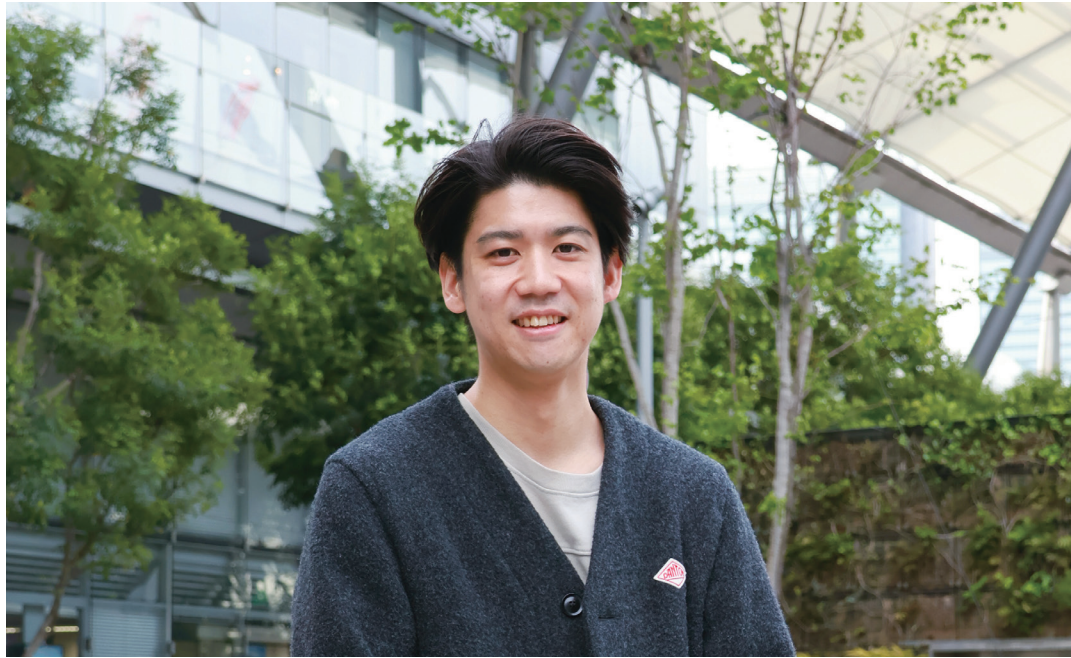
Contents

- 04 メンターの姿
- 08 学生の声
- 10 卒業生の今
- 12 2022年度活動実績

メンターの姿

この春 1on1 college は、メンターを2名から10名へ増員します。拡大へと舵を切る節目に際し、2020年12月からプロボノとしてメンターを務める黒澤 周平さんに話を聞きました。

聞き手：長谷川亮祐



黒澤 周平

mentor
Otonatachi

—
営業部マネージャー
人材紹介会社

「人生、自己理解
したもの勝ち」

— 改めて、仕事が忙しい中でどうしてメンターを続けているの？

人が好き、が大前提にあって。でも一番は1on1 collegeの自己実現のために自己認識と自己管理がある、というところに極めて共感してるんですね。かつ、そこが自分に圧倒的に足りなかったから。今の会社に入って少しずつ自己理解できるようになって人生観、人生の豊かさが変わったから、他の人にもやってあげたいし、そこを学ぶことで今後関わるメンバーや家族に還元できるスキルになるのであれば、ここで培いたいと強く思ってる。人生、自己理解したものの勝ちとすら思う。加えて（創業者の）長谷川さんの存在は大きいんですね。彼と何かやってみたい。何をやるかより誰とやるかをもともと重視している。もし彼が「うどん屋をやる」って言ったらそれも手伝うと思う（笑）。

— 2年以上も1on1に取り組んでみて、仕事で活かされていることはある？

やっぱり仕事でのマネジメントに影響があります。メンバーのwillとか、今後何したいとか、相談受けることは多くて。以前はメンバーが「うーん」と考えているとイライラしたり、何でこんなこと考えられないんだと思ったりしていたけど、この考える時間が重要なんだと思うようになったかな。その時間が、自分を理解したり、矛盾を紐解いたりする時間。それがあるほどいい1on1だとすら思うようになって。今まで考えてなかった証拠。そこでアウトプットすることはひとつ自己理解が進んだ証拠。あの時間を楽しめるようになりました。



— 黒澤さんが元来持っている「人への興味」は、どこから来ているんだろうね。

もともと、自分が人から何かを吸収したいって気持ちが強い。どう考えて、どうやって生きていこうと知りたいんですね。そして、いいなと思うものを自分に吸収したい。だから人を理解する段階が好きで。人を理解したいという欲求が強い。好きな人だけでなく、どんな人にもそういう要素があるんじゃないかといつも探してるところがある。

— いよいよメンターが増える。率直に、今の気持ちは？

すごく楽しみ。1on1 collegeは大事なところの軸足はあるけど型がないから、今後ひとりひとりが自分らしい1on1をやっていく。だからこそ学びも多い。あの人はこんなことやっていて、それが学生に刺さったなど、そういう事例が増えていったらおもしろいですよね。



1on1 college（ワンオンワンカレッジ）とは？

高校生・大学生に月1回・1時間、社会人メンターとのオンラインでの1on1（1対1での）ミーティングを無償提供しています。学生たちは、進路や日々の過ごし方、人間関係、部活やプロジェクト等での自身の課題発見・解決を継続的に試みています。



もうひとりのメンター、長谷川 亮祐と学生との1on1ミーティングの記録。
1時間の1on1を1ページにまとめており、4年間の活動でたまった記録は
2,000ページにのぼる。

学生の声

1on1 college は実際に、利用する学生たちへ何をもたらしているのか？
何を感じ、何を考えているのか、それぞれの言葉で話してもらいました。

今枝 麻矢子 さん

高校2年生
2021年11月から利用

N・I・D・O

“1on1って、自分のことを振り返って、冷静に分析するところがある。自己分析っていうと「冷たい」イメージがあるけど、実際にやってみると逆に「あったかい」というか。自分を守るというか、愛すというか。

クラスメイトにも勧めた理由は、昔の自分を見ているようだったから。以前の私と同じで「やりたいことがない」って。私は1on1を通して「美術をやりたい」ってわかったんですよ。一般的な考えに流されて除外されてた選択肢があって、1on1ではそれを見つけられる。世間体とかじゃなくて、自分の気持ちに素直になれる。1on1が彼の手助けになるかもしれないなって思ったんです。

(メンターの) 長谷川さんってめっちゃ質問してくるから、最初は否定してくるようになるけど、実は全肯定してくれてるってわかったんですよ。でも最初はびっくりした。そんなこと聞くの!？って。でもそれは直さないでほしいですよ

「美術をやりたいとわかった」

「毎日の行動に、
価値を感じられるようになった」

“この1年は休学して、産総研（産業技術総合研究所、国内最大級の公的研究機関）のインターン、初めての研究、起業と慌ただしかったです。住む場所も山形から茨城、東京と来て。自分のキャリアが他人と一致しない部分が多くて、誰にも相談できなかった。

1on1はしゃべりながら整理する機会になっていて、自分がどういうところに価値軸を持っているかがわかったし、自分の方針を決めるのに役立ってるんですよ。例えば自分は「更新する」ことが好きだと気づいた。何かしら更新できていれば自分は幸福を感じるんだなと。最近もずっと頭の中にある。結果的に、前よりも自分の毎日の行動に価値を感じられるようになったのは大きいですね。

別に記録して公開するわけじゃないから間違っても言語化してもいいんですよ。1on1は、本当に自分のためだけに、めっちゃ心理的安全性の高い状態で、1時間ひたすら言語化できるっていう貴重な機会になってます”

志田 遥飛 さん

高校3年生（休学中）
2022年3月から利用



卒業生の今

2022年度もまた、lon1 collegeの利用者からひとり、またひとりと社会人が生まれています。彼女ら/彼らは何を得て、どんな大人になろうとしているのか。今年度に社会人になったうち7人の姿に迫りました。

- Q1 今、どこで何してる？
(2023年4月現在)
- Q2 当時を振り返って、自分にとってlon1 collegeはどんな存在だった？
- Q3 今の生活や仕事に活かしている、lon1 collegeで得たもの・培われたものがあれば教えて？

今池 雄大さん

利用期間：2年10ヶ月
卒業：2023年3月



Q1 首都圏で、ECサイトを運営する企業で会社員をしています。

Q2 日々取り組んでいる事の目的は何なのか、自分とは何者なのかといった考えずになんとなく過ごしてしまうような問いに対して、考える場でした。lon1のおかげで、学生生活をより濃く、充実したものとなりました。

Q3 言語化する習慣を手に入れました。lon1で常に「なぜ？」を考え、言葉にすることで無意識を意識することができました。この習慣は、なんとなく行動することが減ったり、学びを深いものとする機会になりました。

檜山 諒さん

利用期間：2年3ヶ月
卒業：2023年3月



Q1 高知県でキッチンスタジオの運営、起業に向けての準備をしています。

Q2 自分を客観視する時間でした。今いる自分の環境や関係性を置いておいて、シンプルに物事を考えられる貴重な時間でした。

Q3 自分の仕事や将来を選ぶ時にも面談の時間で話したことを思い出したり、考える視点の持ち方が参考になっています。

大城 舞未加さん

利用期間：2年8ヶ月
卒業：2022年8月



Q1 今年から東京の、国際会議や学術会議の運営、施設運営などを行う会社で働き始めました。

Q2 自分自身と素直に対話できる場所でした。私は相手の反応や性格を見て話す内容や言葉選びを変え、気持ちを素直に言えないことも多かったのですが、lon1ではメンターさんの信頼関係のもと安心して話せました。

Q3 「今は見えていない私の良さがきっとある」と思えるようになりました。進路ややりたいことを今決められなくても、全力で頑張ってきた一つ一つのことが何かに繋がっているはずだと思って日々頑張っています！

中島 颯太さん

利用期間：2年9ヶ月
卒業：2023年3月



Q1 アパレル業界の小売部門で、長岡に配属され働いています！

Q2 全くわかっていなかった自分自身のことを対話を通して理解できるようになった貴重な時間でした。

Q3 自分自身を客観的に見つめ直し、なんでこのように考えているのかと思考を論理的に分析できるようになったこと。

山本 しずくさん

利用期間：1年8ヶ月
卒業：2023年3月



Q1 社会人として、福祉領域を拡張するベンチャー企業で働いています。

Q2 自分の考えや思いを言語化して整理する場所でした。自分の内面に向き合う機会がこれまで少なく、始めた頃は何を話していいかわからず戸惑っていましたが、だんだん向き合い、整理できるようになりました。

Q3 思考を整理する時に自分自身に対して質問を投げかけながら整理できるようになりました。また、気づかないうちに当たり前だと思っていたことを疑い、さまざまな視点から考えられるようにもなりました。

川俣 友さん

利用期間：2年6ヶ月
卒業：2023年3月



Q1 コンサルティングファームで新社会人として働いています。

Q2 自分に問いを投げかけ続ける場所、安心して心の内を話せる場所でした。

Q3 中立的な立場のメンターの方と共に自分自身を咀嚼し続けたことで、私自身の理解を深められました。結果として、より納得感のある選択を取り続けることができています。

宮本 梨乃さん

利用期間：2年10ヶ月
卒業：2022年8月



Q1 デザイン制作会社で、営業(デザイナーとお客さんをつなげる役割)の仕事をしています！

Q2 もやもやをすっきりさせるような場でした。一つ一つの言葉に、それはなんでなの？と長谷川さんからの質問の繰り返しで、その中で、一つ一つ向き合っていく、言葉にしていくことで、たくさんの発見がありました。

Q3 考えや悩みを納得いくまで自分に聞き返したり、難しい時は信頼のある友達に話したりしています。そのおかげか、就活の面接で面接官に、君は自分の言葉で一つ一つ考えて喋っているねと言ってもらい、嬉しかったです。

2022年度
活動実績 | 数字でみる Otonatachi

Numbers
in
Otonatachi

60人

現在の利用者数

97.5%

自分の価値観を、以前よりも深く
理解したか

183人

累計の利用者数

97.5%

自分の価値観に基づいて何かを選
択したり日々を送りたいと、以前
よりも強く思うようになったか

利用者の在籍校

【高校・高専】

郁文館グローバル | 北豊島 | 吉祥女子 | クラーク国際 |
高知国際 | 渋谷教育学園渋谷 | 筑紫女学園 | 鶴岡工業
高専 | 東京学芸大附属国際中等教育学校 | 東京韓国学校
| 東洋英和女学院 | 福岡工業大学附属城東 | Marc
Garneau Collegiate Institute | N | UWC SAK JAPAN

【大学・専門学校・大学院】

大阪 | 九州デザイナー学院 | 慶應義塾 | 高知 | 神戸市
外国語 | 国際教養 | 国際基督教 | 淑徳 | 昭和薬科 |
多摩美術 | 筑波 | 電気通信 | 都留文科 | 東京 | 東京医
科歯科 | 東京工業 | 東京女子 | 東京成徳 | 東京農業 |
獨協 | 名古屋 | 日本 | 日本女子 | 兵庫県立 | 文教 |
北海道情報 | 宮城教育 | 立教 | 立命館 | 立命館アジア
太平洋 | 早稲田 | University of Amsterdam | University
of London | University of British Columbia | Mount
Holyoke College | San Francisco State University |
Seoul National University | University of Toronto
※短期留学を除く

65.6%

累計の女性割合

4.5年

最長の利用年数
(2018.10 ~ 現在)

458回

年間 1on1 提供数
(2022年度)

2022年度
活動実績 | ハイライト

Highlight

9月8日 BlackRockで講演

世界最大の資産運用会社ブラックロック (BlackRock) 社日本拠点にて、Otonatachi の活動を紹介する機会をいただきました。私たちが高校生・大学生に提供している1on1ミーティングでの考え方や実際の聴き方・問い方、そして学生の様子や社会的背景について、予定時間の終了後にまで質問をいただき、皆さんの教育、子育て、人材育成への強い関心を感じる時間になりました。ブラックロックでは定期的にNPOを招き、社員が主体的に、数多くの活動をグローバルで支援していると聞きました。皆さんの学習意欲、社会貢献への情熱には驚くばかりです。貴重なご縁に、心から感謝いたします。



3月4日「二枚目の名刺」サポートプロジェクト開始

NPOを支援するNPO「二枚目の名刺」の2023年計画にOtonatachiが選ばれ、3月から3ヶ月間のサポートプロジェクトが進行しています。この期間、異なる業界・職種・年代の8名の社会人が経営に参画し、Otonatachiの課題発見・解決を試みます。二枚目の名刺は2009年から活動を開始し、社会人のパラレルキャリア・越境学習と、非営利団体の事業を推進する役割を担っています。現在日本で躍動するNPOにおいて、活動初期に「二枚目の名刺」から支援された事例は少なくありません。今後の拡大・発展に向けて、私たちもこの貴重な機会を存分に活かしていきます。

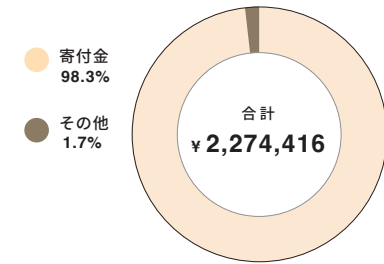


2022年度活動実績 | 収支と寄付について

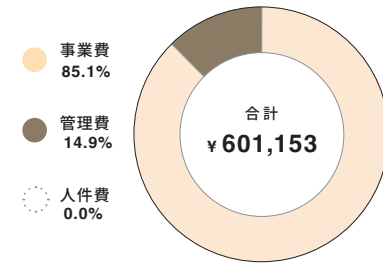
Income/
Outcome
Donation

2022年度収支実績：¥1,673,263

収入



支出

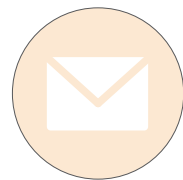


前年度からの繰越金
¥937,006

次年度への繰越金
¥2,610,269

ご寄付の使途
寄付は主に、日本全国・世界各国の学生が社会人メンターに繋がるための通信費に充てられます。

寄付いただいた方へ



LETTER

月1回/月末

学生たちとの1on1のハイライトを、私たちの最新情報と併せてメールでお届けします。



EVENT

年1回/6~7月

活動レポート(本誌)制作時に、支援者向けの限定イベントを開催します。

寄付はこちら

毎月1,000円の寄付で、4人の学生が1on1ミーティングを利用することができます。

公式webサイト

※よくあるご質問をweb上に掲載しております。



Benevity

寄付プラットフォーム「Benevity」のパートナー企業にお勤めの方は、社内システムからご支援いただくことができます。



※お勤め先や寄付の時期によって、企業が寄付金の一部を負担する制度があります。詳しくはお勤め先の担当部署までお問合せください。

支援者の声

阿部 由希奈さん
カレー料理人
合同会社 and CURRY 代表



活動報告を見るたびに、学生時代のわたしが羨ましいなあと声をあげる…過去の自分が欲しがらう経験が、この活動にあると感じ寄付を決めました。

話を聞いてもらえたという安心感と、心を開ける時間が育むものがあり、社会が必要としているピースだと思うのです。

山下 大典さん
会社員



自分との対話。多様な生き方が認められ、皆が自分の生き方を問われる今の時代には必要なものとなっています。ただそれは決して簡単ではなく、誰もが自分の生き方を見つけるために必死にもがいています。1on1 collegeはそんな人達の「自分との対話」を後押しすることで、この世の中のギャップを埋めてくれる存在だと思います。



Otonatachi The Kids are Alright

2023.3

発行日：2023年5月31日
編集：長谷川 亮祐
デザイン・写真：高橋 真美
発行：オトナタチ一般社団法人
東京都杉並区桃井4-13-18-403
www.otonatachi.com



ニュースレターへの
ご登録はこちらから



©Otonatachi 2023 Printed in Japan
本誌掲載の文章・写真・商標の無断転載・
借用はかたくお断りします。

Otonatachi